

土偶形容器と中屋敷遺跡

土偶形容器

関東以東で最古級の炭化米^{たんかまい}が出土したことも知られる中屋敷遺跡で見つかったものです。「土偶」となっていますが、用途などから考えると「土偶形容器」と呼ぶことがふさわしいので、これまでも町では土偶形容器の名称を使用しています。弥生時代前期のものとされ、頭頂には開口部があり、容器として使用されてきたことがわかります。中には、乳児の骨や歯が納められていました。



国指定重要文化財 土偶形容器
昭和36年2月17日指定

頭は左右に広がる長髪で、円形の口の周りには入れ墨が見られます。胴には乳房と妊娠時腹に現れる「正中線」らしき模様が見られ、足は省略され腰がふくらみ平底になっています。母親の胎内ともいえる女性の土偶形容器に死亡した子を戻し再生を願ったのでしょうか。

土偶形容器の代表例として、大英博物館で展示されました。一般には公開されていませんが、大井町生涯学習センター2階資料展示室で土偶形容器のレプリカを展示しています。



土偶形容器内に納められていた幼児の骨の破片や歯



22号土坑出土炭化米

発見された炭化米 資料提供 昭和女子大学

中屋敷遺跡

1999年から10年間に、昭和女子大学により中屋敷遺跡の調査が行われました。その結果、土坑※の中の炭化物を含んだ土の中に、約2500年前（弥生時代前期）の炭化したイネ、アワ、キビなどの穀物が含まれていることがわかり、注目されました。また、イネなどの穀物と一緒に縄文時代の人々の伝統的な食材であるトチノキも見つかったことから、中屋敷遺跡は、縄文時代から弥生時代へと移行する時期の人々の食生活を知るうえでとても重要な手がかりとなっています。

※土坑：古代の人が掘った穴の総称

